

軍令部次長ハ戰況ニ關シ次ノ如ク説明セリ

(4) 足利、長良、五水戰（暹羅艦五）昨朝海南島出發傳印沿岸ヲ南  
下シ二十五日朝暹佛印國境海上ニ現ハレ成電ヲ示ス

(5) 在高雄飛行隊ヲ海南島ニ派遣セシム

(6) 在英運洋艦五、水雷戰艦、航空戰艦各二隊ヲ海南島ニ出發シ  
得ル如ク準備ス

(7) 在神防海軍運送船機用占守一隻ニ帶海艇一ヲ増勢ス  
爾右ノ如キ戰勢ハ取ルモ敵方抗戰セサル以上戰鬪行動ハ取ラサル  
モノト豫測ス

一月三十日第七回連絡懇談會

對佛印泰施策要綱ノ件

出席者

内閣總理大臣

平沼内務大臣

陸軍大臣

海軍大臣

外務大臣

參謀總長

軍令部次長

富田書記官長

岡海軍軍務局長

武藏陸軍軍務局長

齋藤南洋局長

三 岡軍務局長 所要事項ノ説明ヲナス

及 外相發言

本施策ノ概成ハ三月末テハ出來ント云フモ宜シイ、責任ヲ以テシテハ出來スト云フ外ナイ

總長 何時頃出來ルカ

外相 六月末頃ナラ出來ルカモ知レヌ、六月末ハ長イト云フカモ

知レヌカ其間統帥部ハ準備シテ居レハ宜シイテハナイカ

總長 國際情勢上春夏ノ候ニ情勢ノ大轉換ヲ豫想セラルルカラ之

ニ應シ得ル爲三月末ヲ目標トセサルヘカラス特ニ目下ノ如ク國際情勢カ急遽ニ轉換スル狀況ニ於テ本問題ヲ長ク解決セスニ置クノハ不適當ナリ又軍自體トシテモ本問題ノ解決ハ他ノ問題ニ關係スルコトカ大テアル

軍令部次長 佛印ニ飛行場、港灣等ノ施設ヲスルノニ遅クナツテハ

全般ノ情勢上困ル

右論議ヲ數回反復スルモ決セス

外相 英米ヲ刺戟シテ陸海軍ハ差支ナキヤ、刺戟セストモ荒ボイ

行方ヲセスニ目的ヲ達成シ南方ニ寄襲的ニ戦争ヲシタ方カ

得テハナイカ

海相 三月末ヲ目標トシ國際的大轉換ニ對スル準備ヲスル「心組」

テ三月末ヲ削除シテハ如何

總長 夫レテハ困ル

外相 出来ヌモノハ仕方ナイテハナイカ

總長 情勢眞ニ已ムヲ得ナイ時南方作戰カ惹起セラルルノテアツ  
テ其南方作戰ノタメニ此際是非據點ヲ確立スルノカ必要ナ  
ノテアル

陸相 右ヲ強調ス

以上ノ間ニ總長ハ外相ノ英米ヲ刺戟セサル様施策スルノ件ニ關シ  
陸軍同意ナル旨ヲ述フ

平沼 武力行使ハ英米ヲ刺戟スルト云ハルルカ佛印カ調停ニ應セ

サルトキ武力ヲ行使スルノテハナイカ、夫レハ宜シイ之ハ  
惡イテハ矛盾スルテハナイカ、長引ケハ益々不可三月末ヲ  
入レタ方カ宜シイ

外相 同意セス

「三月末ヲ目標トシ」ヲ除キ勉メルト云フ覺書テハ如何ト云フ提  
案ニ對シ外相ハ「勉メルモ困難ナリ」ト附加セサレハ同意セスト  
述フ

話ハ一向ニ進展セス

外相 三月三月ト云フカ戰爭スル機ナ行方カ宜シイノカ

總長 戰爭ヲ強制スルノテハナイ

外相 ソレナラ俺ニハ出來ス

以上ノ如クニシテ次ノ覺書ヲ交換シ列席者捺印シテ「三月末ヲ目標トシ」ヲ除クコトニ決定ス

覺書「第二方針ノニ關シ本施策ノ目的達成ハ三、四月頃ヲ目標トシ外交上最善ヲ盡スヘシ」

四目的ニ關シ「大東亞共榮圈樹立並帝國ノ自存自衛ノ爲」云々ト大東亞共榮圈樹立ヲ入レルコト外相提案ス

總長ハ「當面スル」ト冒頭ニアルヲ以テ必要ナラスト述フ、結局

「大東亞共榮圈建設ノ途上ニ於テ」ヲ入レルコトニ決定ス

五次テ海相、方針一ノ「已ムヲ得サレハ佛印ニ對シ武力ヲ行使ス」

ヲ削除シテハ如何ノ提案ニ對シ總長不可ナリト主張シ原案通り決定

六更ニ外相發言シ外相提案ノ備考ハ削除スルモ記錄ニ止メ置イテ吳レト述フ

七本要綱ノ取扱ニ就テ

總長、次長、御前會議ニ於テ正式決定スヘク提議セルモ大部ノ者ハ毎回々々御前會議ヲ御願ヒスルハ一考ヲ要ス此ノ前ノ連絡懇談會ノ結果ハ既ニ上奏シテアル本要綱ハ其ノ細項トモ云フヘキモノ故必要トスト述ヘ特ニ御前會議ヲ聞カスニ兩總長及總理ヨリ合同

極

秘

決定

40 部ノ内第 26 號

對佛印泰施策要綱

昭和十六年一月三十日  
大本營政府連絡會議決定

上奏スルコトニ意見一致ス

總長ハ提案理由ハ軍令部總長外交ハ經理、軍事ハ參謀總長ヨリ上  
奏スルヲ適當ナリト述フ

ハ以上ノ経緯ニ依リ別冊對佛印、泰施策要綱ヲ決定ス

備考

上奏シテ御裁可ヲ仰クヘキヤ否ヤハ未決ノ假會議ハ終了セリ